

「不安」「問題点」をユニオンは上申していますか!?

「車掌2人乗務」の既成事実づくりは認めないぞ!

会社は、8月21日から「新幹線車内業務の見直しに伴う車内業務の検証実施について」とした掲示を出し、来年3月から実施するとしている提案を先取りし、通常乗務する車掌3名のクルーに対して2人乗務のシミュレーションを行いました。

5つの行路に対してそれぞれ4日間の検証を実施し、乗務終了後に担当したクルーの車掌から問題点を聞き取りすると訓練でも周知しました。

検証実施の乗務を行なった乗務員からは「サービス低下になる!」「こんなんやっぺられない!」「(車掌長は)歩きっぱなしやった!」の問題が詰所で話されていました。

シミュレーションはユニオンの後押しで実施された!

現在、会社とユニオンは「車内業務の見直し」に関する業務委員会で、実施ありきの交渉を一体となって進めています。会社は職場に設置した特別なスペースを使った宣伝活動を行ない、ユニオンは鎌田本部委員長が「東海道新幹線の車掌業務がどうあるべきか、施策の実施に向け具体的な討議を行って頂きたい」と本部大会で挨拶し、5つの運輸所の代議員からは、営業列車による検証を実施し、課題を抽出し課題の洗い出し、乗務員の不安払拭をするべきだという意見が出されています。

皆さん! 高い組合費を払って配布されるユニオン新聞にもこんな重要な事が書いてますよ。新聞を読んでユニオン役員の「検証」をしましょう! 職場で苦労している問題点や不安についてユニオン役員は会社に代弁していますか。検証も2人乗務も組合員の皆さんが望んでる施策ですか。新聞を読めばその事実が分かります。

管理者の聞き取りもいい加減な聞き流し!

シミュレーションの乗務を終えた車掌長に対して管理者が問題点を聞き取る作業が行われ、わざわざ超勤で対応させられています。管理者の姿勢はメモを取ることもなく「大変やったなあ」と感想を漏らすだけに留まっています。訓練でも、検証実施したデータや問題点を乗務員に開示するのか、全乗務員が検証の乗務経験が出来るのかの質問に対しても「検討中です」の回答しか返ってきません。

会社・ユニオンが一体となった既成事実づくりか!?

会社が予定している来年3月まで、再度、検証が実施されるとの話があります。あくまでも噂ですが、乗務員の皆さん、乗務報告書には「苦情」「不満」「不安」「安全低下」「サービス低下」の事実をしっかりと書き込んで「既成」ではない事実を報告しましょう!